

# 高知県感染症発生動向調査（週報）

2014年 第9週（2月24日～3月2日）

## ★お知らせ

### ○インフルエンザに注意して！

定点医療機関からの報告は前週の17.90から21.54に増加し、県全域では引き続き注意報値を超えています。迅速検査はインフルエンザA型73%、B型27%となっており、B型の割合が前週より増えています。また、感染症情報収集システムでは学年・学級閉鎖の報告が前週の7校から9校に増加しています。感染力が大変強いので今後も手洗い、うがい及び咳エチケットの感染予防をしてください。

### ○感染性胃腸炎に注意して！

定点医療機関からの報告は前週から横ばいです。胃腸炎の原因の一つであるノロウイルスは感染力が大変強いので、学校や社会福祉施設など集団生活の場では特に注意してください。また、症状が消失した後も、1週間程度、長いときには1ヶ月程度患者の便の中にウイルスが排出される可能性があり、2次感染に注意が必要です。感染を拡大しないために、排便後、調理や食事の前には石けんと流水で十分に手を洗いましょう。消毒には、次亜塩素酸ナトリウムを使用するか、85℃以上で1分以上の加熱が必要です。

高知県ノロウイルス対策マニュアル ([URLhttp://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html](http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html))

厚生労働省ノロウイルスに関するQ&A (<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html>)

### ○流行性耳下腺炎に注意して！

定点医療機関からの報告は前週の1.50から2.03に増加し、須崎福祉保健所管内では注意報値を超えています。この病気は、2～3週間の潜伏期を経て、片側あるいは両側の唾液腺の腫脹・圧痛、嚥下痛、発熱を主症状として発症し、通常1～2週間で軽快します。接触、あるいは飛沫感染で伝播し、その感染力は強い一方、感染しても症状が現れない不顕性感染も30～35%みられます。予防のためには、患者も周囲の人をよく手を洗い、唾液がつく可能性があるタオルは別にしましょう。

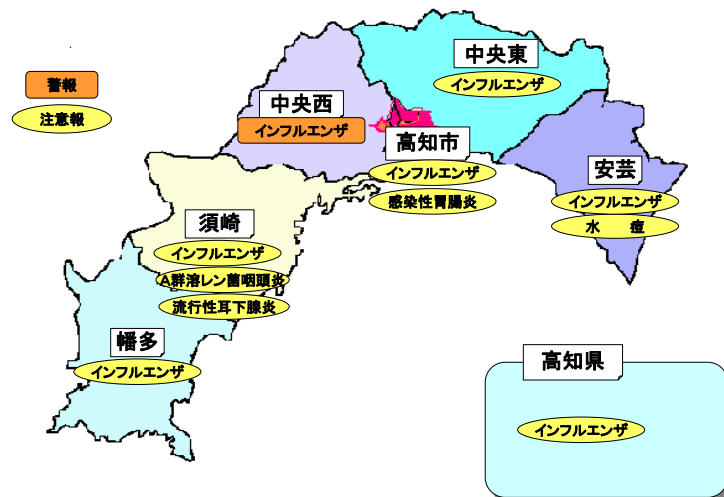
## ★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患）

↑：急増    ↗：増加    →：横ばい    ↘：減少    ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
インフルエンザ	↗	21.54	全ての地域で増加し、中央西で警報値を、県全域及び高知市、幡多、中央東、須崎、安芸で注意報値を超えている。
感染性胃腸炎	→	7.43	高知市で増加し注意報値を超えている。
流行性耳下腺炎	↗	2.03	須崎、高知市、中央東、中央西で増加している。須崎では引き続き注意報値を超えている。
水痘	↘	0.77	安芸、中央東で増加し、安芸で注意報値を超えている。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	0.63	中央西で増加し、須崎では引き続き注意報値を超えている。

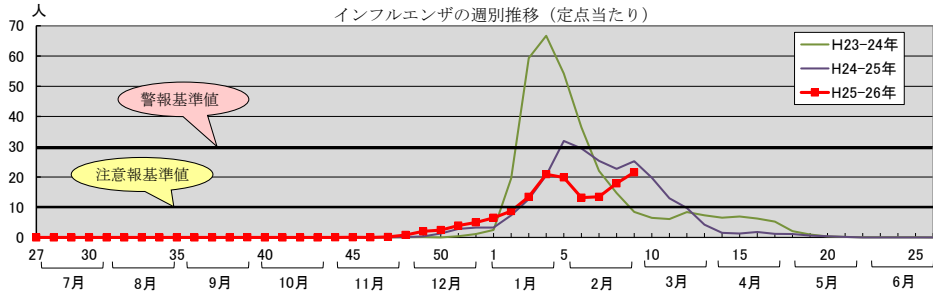
## ★地域別感染症発生状況



★気をつけて！

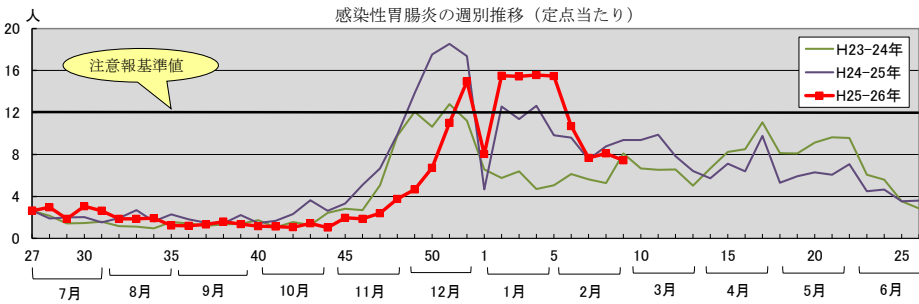
○インフルエンザ：21.54（注意報値：10.00 警報値：30.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 21.54（前週：17.90）と増加し、引き続き注意報値を超えています。地域別にみると、中央西（32.60：前週 26.80）高知市（28.81：前週 23.19）幡多（19.25：前週 18.63）中央東（14.55：前週 12.64）須崎（14.00：前週 9.00）安芸（10.00：前週 7.50）と全ての地域で増加し、中央西では警報値を、高知市、幡多、中央東、須崎、安芸では注意報値を超えています。病原体定点の検体からは Influenza virus AH1pdm09 が 7 例、Influenza virus AH3 NT が 1 例、Influenza virus B NT が 1 例 検出されています。



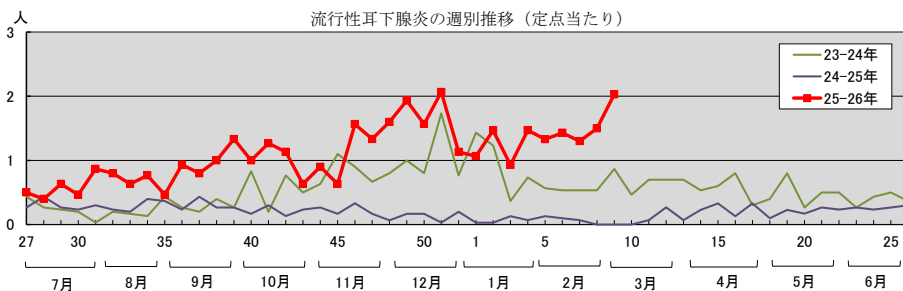
○感染性胃腸炎：7.43（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告は定点当たり 7.43（前週：8.10）と横ばいです。地域別にみると、高知市（13.82：前週 10.36）で増加し注意報値を超えています。



○流行性耳下腺炎：2.03（注意報値：3.00 警報値：6.00）

定点医療機関からの報告は定点当たり 2.03（前週：1.50）と増加しています。地域別にみると、須崎（4.50：前週 4.00）高知市（2.73：前週 1.91）中央東（2.00：前週 1.14）中央西（1.67：前週 1.33）で増加し、須崎では 3 週連続注意報値を超えています。



★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2 類	結 核	4	20	90 歳代（女）	高知市
				80 歳代（男）	中央西
				15～19 歳（男）	須 崎
				80 歳代（男）	幡 多
5 類	ウイルス性肝炎	1	1	40 歳代（男）	中央東

## ★病原体検出情報

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
8	不明発疹症	1	男	須崎	Human herpes virus 6
8	不明発疹症	1	女	須崎	Rhinovirus Human herpes virus 7
8	急性気管支炎	5ヶ月	男	高知市	Human metapneumovirus
8	インフルエンザ	2	男	高知市	Influenza virus A H1pdm09
8	インフルエンザ	15	女	中央東	Influenza virus A H1pdm09
8	インフルエンザ	1	女	須崎	Influenza virus A H1pdm09
8	インフルエンザ	12	女	須崎	Influenza virus A H1pdm09
8	インフルエンザ	8	男	須崎	Influenza virus A H1pdm09
8	インフルエンザ	44	女	須崎	Influenza virus A H1pdm09
8	インフルエンザ	1	男	須崎	Influenza virus A H1pdm09
8	インフルエンザ	3	女	中央東	Influenza virus A H3 NT
8	インフルエンザ	12	男	高知市	Influenza virus B NT
8	急性肺炎	1	男	中央東	Rhinovirus

## ★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	あけぼの小児科クリニック	マイコプラズマ感染症 1 例 (LAMP 法陰性、抗体価 1280 倍) アデノウイルス感染症 2 例 (1、2 歳) ロタウイルス胃腸炎 2 例 (1、4 歳：兄弟) RS ウイルス感染症 1 例 (6 ヶ月)
	JA 高知病院小児科	おたふく 2 例 (5 歳男：南国市)
	野市中央病院小児科	インフルエンザ A 型 2 例 (7 歳男：ワクチン未接種、7 歳男：ワクチン接種済み) インフルエンザ B 型 1 例 (12 歳女：ワクチン接種済み)
	早明浦病院小児科	アデノウイルス感染症 1 例 (1 歳) 某保育所で流行性耳下腺炎流行中
	いちはら内科小児科	インフルエンザ A 型 29 例 (男 8、女 21) インフルエンザ B 型 6 例 (男 3、女 3)
	高知大学医学部付属病院小児科	インフルエンザ脳症 1 例 (8 歳女)
高知市	けら小児科・アレルギー科	カンピロバクター腸炎 1 例 (14 歳男) アデノウイルス扁桃炎 3 例 (0、1 歳男、1 歳女) ロタウイルス腸炎 3 例 (3 ヶ月、1、4 歳男)
	高知医療センター小児科	ノロウイルス 1 例 (2 歳女) ロタウイルス 1 例 (12 歳男)
	福井小児科・内科・循環器科	インフルエンザ A 型と溶連菌感染症の合併 1 例 (12 歳男) インフルエンザ A 型 22 例、B 型 12 例
中央西	くぼたこどもクリニック	インフルエンザ A 型 2 例 (11 歳男：須崎市、12 歳男：土佐市) インフルエンザ B 型 1 例 (12 歳女：ワクチン 2 回接種：津野町) 流行性耳下腺炎 1 例 (4 歳女：須崎市)
須崎	もりはた小児科	8wカンピロバクター腸炎 1 例 (10 歳女) インフルエンザ 33 例 (A 型 13 例 (AH1,3 例)、B 型 19 例、AB1 例)
幡多	さたけ小児科	マイコプラズマ感染症 1 例 (8 歳男) アデノウイルス感染症 2 例 (2、8 歳男)

## ★全国情報

### 第7週 (2/10～2/16)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核292例

3類感染症：細菌性赤痢3例、腸管出血性大腸菌感染症6例、腸チフス1例

4類感染症：E型肝炎3例、A型肝炎7例、つつが虫病2例、デング熱4例、ブルセラ症1例、マラリア1例  
レジオネラ症18例

5類感染症：アメーバ赤痢10例、ウイルス性肝炎1例、急性脳炎12例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例  
後天性免疫不全症候群15例、ジアルジア症2例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、梅毒11例

侵襲性肺炎球菌感染症16例、先天性風しん症候群1例、破傷風1例、風しん6例、麻しん16例

報告遅れ：ブルセラ症1例、急性脳炎9例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例

## ★2014年のA型肝炎の増加 (2014年2月21日現在)

2014年のA型肝炎の報告数は、第3週以降急増し、例年を超える報告数で推移している。2月21日までの報告数は44例で、過去2年の同時期と比較して約2倍の報告数であった。報告は18都府県で、多い順に宮城県が11例、大阪府が6例、埼玉県が4例、東京都が4例で3例以下の報告数が14府県であった。44例のうち発症日の明らかな37例について、2月21日時点で1月下旬に報告数のピークがみられた。これは2011年の千葉市での集団発生事例以来のピークである。

2014年に報告された44例の基本情報について、年齢中央値は46.5歳(1～81歳)で、年齢階級別では50～69歳が18例(41%)で最も多く、次いで20～39歳が14例(32%)であった。性別は男性が26例(59%)、女性が18例(41%)で、国内が推定または確定感染地域として報告された症例が31例(70%)であった。国外が推定感染地域として報告された症例は12例(カンボジア2例、タイ2例、パキスタン2例、フィリピン2例、インドネシア1例、エチオピア1例、韓国1例、モロッコ1例)であった。1例は感染地域不明であった。合併症、劇症型肝炎および死亡例の報告は2月21日時点ではない。感染経路は、経口感染が推定された40例(91%)のうち、15例(38%)で生カキ喫食の記載があった。診断方法は、44例すべてが血清IgM抗体検査によるもので、このうち2例はPCR法によるウイルス検出も行われた。遺伝子型別は2月21日時点で12例に行われ、IAが5例、IIIAが7例であった。IIIAの7例はすべて宮城県内の症例であった。

A型肝炎はA型肝炎ウイルス(HAV)による疾患で、一過性の急性肝炎をきたす。2～7週間の潜伏期間ののち、発熱、全身倦怠感、食欲不振、悪心・嘔吐、黄疸などの症状を起こす。特異的治療はなく、治療法は安静や対症療法が中心であるが、多くは1～2カ月の経過で回復し慢性化しない。まれに劇症化(0.1%)して死亡することがある。治癒後には強い免疫が残される。小児では不顕性感染が80～95%と多いため、時に無症状のまま、集団発生の感染源となることもある。一方、成人では顕性感染が75～90%と多い。通常、年齢が上がるに従い、重症度も上昇し、A型肝炎の症例全体の致死率は0.1%以下であるが、50歳以上では2.7%に達する。HAVは糞便中に排泄され糞口感染によって伝播する。国内の感染経路としては、魚介類の生食などによる経口感染や、性的接触などが報告されている。

A型肝炎は潜伏期が長いことから、聞き取りによる食材などの感染源についての調査は非常に困難である。広域集団発生の可能性も含めて感染源の共通性を検討するには、ウイルス学的検査による分子疫学的手法を用いた方法による確認が極めて重要である。過去の我が国における事例は、海産物の生食や輸入品による集団発生が報告されており、これらの原因調査は分子疫学検査が重要な役割を果たした。また、2009年からオーストラリアやフランス、オランダなどではセミドライトマトに関連したA型肝炎の集団発生があり、2012年から2013年にかけては、北欧で発生した冷凍イチゴに関連するA型肝炎の集団発生事例が報告され、それぞれ分子疫学検査によって症例間の関連性が明らかとなった。我が国でA型肝炎の診断は、ほとんどの場合血清IgM抗体検査が行われている。我が国のA型肝炎の遺伝子型はIAが主流であるが、2010年に複数の自治体でIIIAが報告されている。また、海外では2009年にIIIAのアウトブレイクが報告されている。2014年、一部自治体では遺伝子型別が積極的疫学調査によって行われている。一部の地域でのみ行われている遺伝子検査は、全国的には自治体あたりの患者数が少ないためあまり実施されていない状況である。なお、地方衛生研究所より国立感染症研究所ウイルス第二部へウイルス解析の依頼とともに検体送付があれば遺伝子検査の実施は可能である。

医療機関においては、問診などによりできる限り具体的な情報を収集し、その後の保健所等の調査に繋げることが望まれる。便や血清中にウイルスが検出される期間は、黄疸発症、または肝機能を表す酵素(ALT、AST)の値のピーク時から数日間である。ウイルスの検出は発症早期の短期間に限られているので、A型肝炎が地域で流行している場合や、広域集団発生が疑われる事例においては、その対策に資するべく検体採取に適した時期に積極的な検体確保・検査の実施が重要である。保健所、地方衛生研究所等においては、医療機関と連携して個々の事例の原因究明にあたりとともに、食材・食品の広域流通という観点も併せ、事例調査と対策における自治体間の連携が、対策上重要と考えられる。

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

高知県感染症情報(58定点医療機関)

第9週 平成26年2月24日(月)～平成26年3月2日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第9週					計	前週	全国(8週)	高知県(9週末累計)		全国(8週末累計)
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H25/12/30～H26/3/2	
インフルエンザ	インフルエンザ		40	160	461	163	56	154	1,034 ( 21.54)	859 ( 17.90)	135,579 ( 27.36)	6,499 ( 135.40)	818,042 ( 166.85)
小児科	咽頭結核熱			1		1		3	5 ( 0.17)	5 ( 0.17)	1,106 ( 0.35)	47 ( 1.57)	9,683 ( 3.10)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			1	6	2	9	1	19 ( 0.63)	28 ( 0.93)	6,722 ( 2.13)	143 ( 4.77)	44,458 ( 14.24)
	感染性胃腸炎		4	34	152	14	6	13	223 ( 7.43)	243 ( 8.10)	20,527 ( 6.50)	3,117 ( 103.90)	216,874 ( 69.47)
	水痘		8	4	9	1		1	23 ( 0.77)	36 ( 1.20)	3,520 ( 1.11)	295 ( 9.83)	32,007 ( 10.25)
	手足口病								( )	6 ( 0.20)	235 ( 0.07)	11 ( 0.37)	2,511 ( 0.80)
	伝染性紅斑								( )	1 ( 0.03)	331 ( 0.10)	7 ( 0.23)	2,572 ( 0.82)
	突発性発疹			1	8			2	12 ( 0.40)	9 ( 0.30)	1,283 ( 0.41)	87 ( 2.90)	9,933 ( 3.18)
	百日咳								( )	( )	25 ( 0.01)	1 ( 0.03)	187 ( 0.06)
	ヘルパンギーナ								( )	( )	43 ( 0.01)	1 ( 0.03)	380 ( 0.12)
	流行性耳下腺炎			14	30	5	9	3	61 ( 2.03)	45 ( 1.50)	742 ( 0.23)	376 ( 12.53)	5,402 ( 1.73)
RSウイルス感染症			1	1	1	1	2	6 ( 0.20)	11 ( 0.37)	1,162 ( 0.37)	240 ( 8.00)	14,293 ( 4.58)	
眼科	急性出血性結膜炎								( )	( )	5 ( 0.01)	( )	52 ( 0.08)
	流行性角結膜炎								( )	( )	345 ( 0.51)	4 ( 1.33)	2,987 ( 4.43)
基幹	細菌性髄膜炎								( )	( )	3 ( 0.01)	2 ( 0.25)	60 ( 0.13)
	無菌性髄膜炎			1					1 ( 0.13)	( )	9 ( 0.02)	4 ( 0.50)	120 ( 0.25)
	マイコプラズマ肺炎			1	2				3 ( 0.38)	4 ( 0.50)	100 ( 0.21)	21 ( 2.63)	799 ( 1.69)
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)								( )	( )	7 ( 0.01)	2 ( 0.25)	69 ( 0.15)
	感染性胃腸炎				3				3 ( 0.38)	1 ( 0.13)	57 ( 0.12)	14 ( 1.75)	426 ( 0.90)
計	(小児科定点当たり人数)		52	217	673	187	83	178	1,390		171,801	10,871	1,160,855
前週	(小児科定点当たり人数)		49	210	564	164	62	199		1,247			
			( 17.00)	( 22.63)	( 40.37)	( 36.79)	( 22.00)	( 28.63)		( 30.70)		( 279.56)	

注 ( )は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第9週					計	前週	全国(8週)	高知県(9週末累計)		全国(8週末累計)
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H25/12/30～H26/3/2	
インフルエンザ	インフルエンザ		10.00	14.55	28.81	32.60	14.00	19.25	21.54	17.90	27.36	135.40	166.85
小児科	咽頭結核熱			0.14		0.33		0.60	0.17	0.17	0.35	1.57	3.10
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			0.14	0.55	0.67	4.50	0.20	0.63	0.93	2.13	4.77	14.24
	感染性胃腸炎		2.00	4.86	13.82	4.67	3.00	2.60	7.43	8.10	6.50	103.90	69.47
	水痘		4.00	0.57	0.82	0.33		0.20	0.77	1.20	1.11	9.83	10.25
	手足口病									0.20	0.07	0.37	0.80
	伝染性紅斑									0.03	0.10	0.23	0.82
	突発性発疹			0.14	0.73			1.00	0.20	0.40	0.41	2.90	3.18
	百日咳										0.01	0.03	0.06
	ヘルパンギーナ										0.01	0.03	0.12
	流行性耳下腺炎			2.00	2.73	1.67	4.50	0.60	2.03	1.50	0.23	12.53	1.73
RSウイルス感染症			0.14	0.09	0.33	0.50	0.40	0.20	0.37	0.37	8.00	4.58	
眼科	急性出血性結膜炎										0.01		0.08
	流行性角結膜炎										0.51	1.33	4.43
基幹	細菌性髄膜炎										0.01	0.25	0.13
	無菌性髄膜炎				0.20				0.13		0.02	0.50	0.25
	マイコプラズマ肺炎			1.00	0.40				0.38	0.50	0.21	2.63	1.69
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)										0.01	0.25	0.15
	感染性胃腸炎				0.60				0.38	0.13	0.12	1.75	0.90
計	(小児科定点当たり人数)		16.00	22.54	47.55	40.60	27.50	24.05	33.17			279.56	
前週	(小児科定点当たり人数)		17.00	22.63	40.37	36.79	22.00	28.63		30.70			

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）  
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1(保健衛生総合庁舎2階)  
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869